

2章 現況及び住民意向からの課題等

1. 現況における課題の整理

これまでに整理を行ってきた現況調査から、主要な項目ごとに都市計画区域及びその周辺部に係る課題を整理する。

表 現況における課題の整理

人 口	<ul style="list-style-type: none">○用途地域内に良好な宅地供給を行い、積極的な人口収容を図る。○本市の人口は、既に減少に転じているが、社会動態の増加につながるような宅地開発や、雇用の場の創出を図る。
土地利用	<ul style="list-style-type: none">○用途地域内の農地は、適切な宅地化を進める。○用途地域外は、出来る限り、農地と集落部の明確な区分を行う。○国道282号沿道は、計画的な土地利用誘導と良好な景観形成を図る。○均衡のとれた市街地の発展を図るとともに、適切な公共・公益施設の配置による利便性の高い市街地の形成を図る。○国道282号（バイパスを含む）沿道と既存商業地の役割分担を明確化するとともに連携を図り、買い物環境の改善、向上を図る。○新庁舎建設予定地周辺における秩序ある土地利用を図る。
交 通	<ul style="list-style-type: none">○都市計画道路の整備を推進し、市街地及びその周辺部の幹線道路ネットワークの構築を図る。○都市計画道路網に合わせて生活道路の整備を推進し、利便性が高く災害に強い市街地の形成を図る。○公共交通機関利用の利便性を高めるため、駅前広場などの整備により、鉄道駅の結節機能を強化する。
その他の都市施設等	<ul style="list-style-type: none">○既存の公園・広場を活用するとともに、防災避難地を確保する意味からも、適切な都市公園の配置を行い、計画的な整備を進める。○公園・緑地を結びつけ、回遊性を確保する。○市街地に近接する良好な自然資源は、景観要素としての保全を図るとともに、身近に利用できる緑地としての活用を検討する。○上水道については、「八幡平市水道事業基本計画」（平成19年3月）に基づき、計画的な施設整備を行う。○下水道については、「八幡平市汚水処理実施計画」（平成19年12月）に基づき、公共下水道事業(西根地区)、特定環境保全公共下水道事業(安代地区)、農業集落排水事業、浄化槽市町村整備推進事業を推進する。

2章 現況及び住民意向からの課題等

2. 市民意識調査における傾向

市の最上位計画である第1次八幡平市総合計画の後期基本計画策定にあたり、平成22年5月に八幡平市まちづくり市民意識調査を実施しました。この結果、アンケート配布数の約72%にあたる6,965世帯から回答が得られました。

ここでは、集計結果のうち、都市計画マスタープランに関わるものを抽出し、その概要を示します。

〔施策の満足度〕

○満足度の高い上位10施策のうち、「上水道」「下水道」「道路」「公共交通」は社会基盤の施策であり、満足度の高さが伺えるが、一方で「道路」においては、不満の割合も多くなっている。

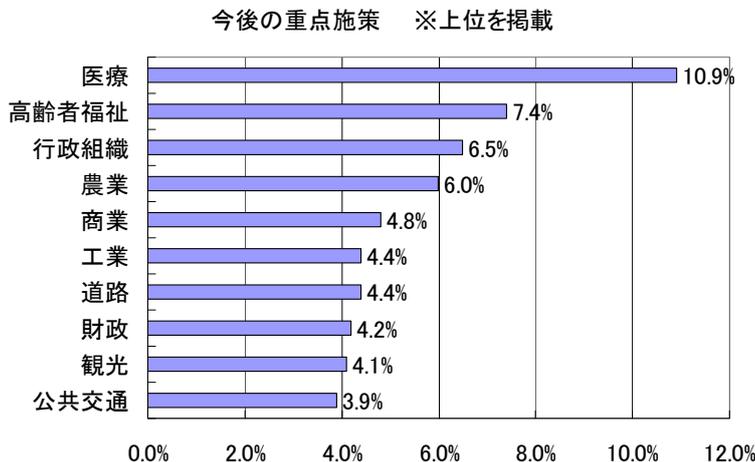
区分	満足割合	不満割合	どちらでもない	その他
環境衛生	38.0%	4.6%	33.0%	24.4%
上水道	37.7%	4.6%	31.4%	26.2%
消防・防災	35.2%	3.2%	34.0%	27.6%
保健	30.5%	3.2%	36.6%	29.6%
下水道	27.3%	10.6%	35.3%	26.8%
道路	22.8%	16.8%	38.2%	22.3%
交通安全	22.6%	9.3%	42.0%	26.1%
犯罪防止	22.1%	8.2%	42.4%	27.1%
公共交通	20.9%	10.0%	39.5%	29.6%
学校教育	19.8%	4.5%	39.0%	36.8%

※比率を全て百分率(%)で表し、小数点第2位以下を四捨五入しています。そのため、比率の合計が100%となっていない場合があります。

(注: 満足割合は“大いに満足”と“満足”の合計値。
 不満割合は“不満”と“非常に不満”の合計値。
 その他は“わからない”と“無回答”の合計値。)

〔今後重点的に取り組むべき施策〕

○今後、重点的に取り組むべき施策に関しては、「医療」「高齢者福祉」といった安心して暮らせる人にやさしいまちづくり、「農業」「商業」「工業」「観光」といった産業振興による活力あるまちづくり、「道路」「公共交通」といった交通ネットワークの充実したまちづくりが望まれている。



2章 現況及び住民意向からの課題等

3. 住民意向調査における傾向

住民意向調査結果における特徴的な傾向は、概ね次の通りである。

なお、本調査は、平成10年度～平成11年度に行ったものである。

— 〔現在のまちづくりの評価〕

○全体として住みやすさに大きな不満はないと見られるが、若い世代や居住年数が短い人は、住みにくいと感じている。

○道路、公園、し尿処理などの生活基盤施設の整備状況に関しては、総じて低い評価である。特に、道路に関しては不満度が高い。

○緑の多さや買い物の便利さは評価が高い

— 〔まちづくり施策への関心度〕

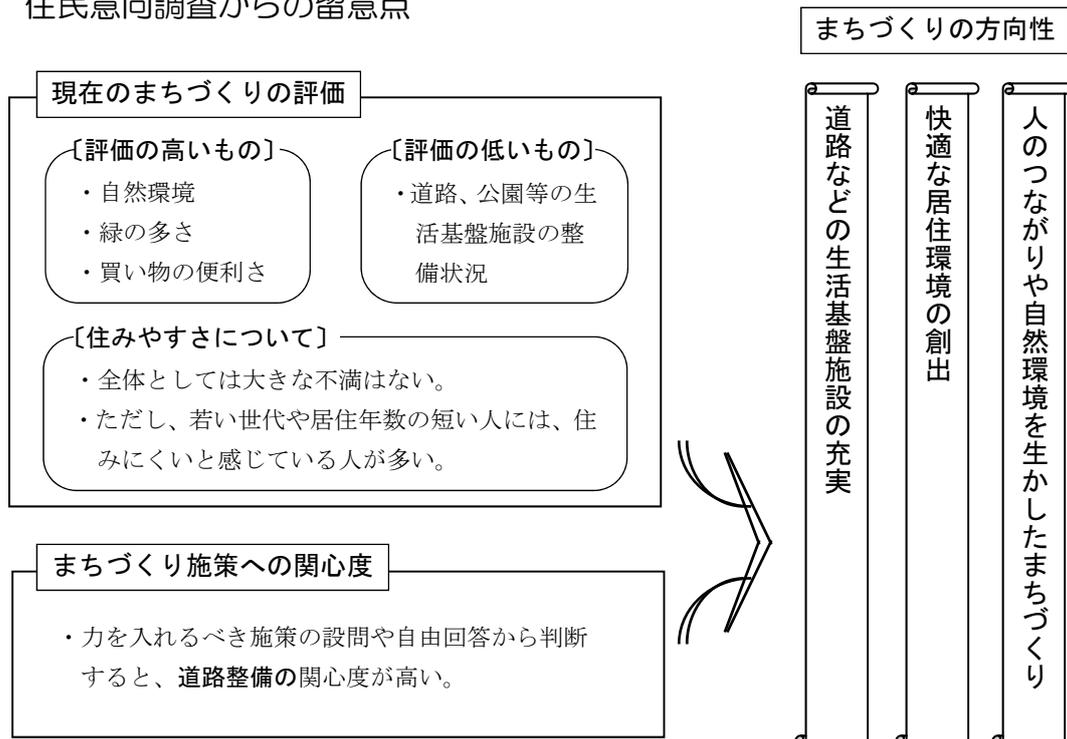
○生活基盤施設（道路、下水道）の整備を望む回答が多い。自由意見では、道路の整備（国道の拡幅、バイパス整備、歩道の設置など）に関する意見が多い。

— 〔将来のまちづくりの方向性〕

○若い世代では「快適環境のまち」の回答が比較的多く、道路や下水道の整備を推進することが課題としてあげられる。

○将来像をキャッチフレーズで表す設問では、人や自然環境に関するもの（「人にやさしいわが町西根」「緑がいっぱい西根町」「人と自然が調和するまち」など）が多く、人のつながりや自然を生かしたまちづくりが望まれている。

図 住民意向調査からの留意点



2章 現況及び住民意向からの課題等

4. ワークショップにおける傾向

ワークショップでの特徴的な傾向は、概ね次の通りである。

なお、ワークショップは、平成10年度～平成11年度に行ったものである。

— 《交通関連》 —

- 道路の拡幅や道路網の充実を図る。特に歩道の設置などにより、歩行者の安全性を確保する。
- 幹線道路へのアクセス道路や生活道路の整備などを行い、日常生活の利便性の向上を図る。
- 鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性の向上を図る。また、駅前における駐車場などの整備を検討し、利用しやすい駅とする。

— 《産 業》 —

- 商業の活性化を図るため、商店街での駐車場や広場の整備を検討する。
- 既存の観光資源を活用するとともに、それらの知名度を上げる方策を検討する。

— 《公園・緑地等》 —

- 町の核となるような公園や緑道等の整備を検討するとともに、市街地内の、気軽に利用できる身近な公園の整備を図る必要がある。
- 河川環境の改善を行う。
- 良好な自然環境の保全及び活用方策を検討する。

— 《その他》 —

- 公共的な施設整備に関しては、個別の施設整備を行うだけでなく、総合的な観点からの検討が必要である。
- 町の中心となる地区を明確にした上で、市街地の一体性を確保する方向でまちづくりを進める必要がある。
- 周辺市町村などとの連携を考慮し、広域的な観点からの施設整備や観光振興策を検討する。
- 町の歴史性を生かしたまちづくりを進める必要がある。

— 《キャッチフレーズ》 —

- 将来の町のキャッチフレーズは、以下のように示された。
 - 「自然・環境・健康のあるまち」
 - 「魚の住む自然の溪流のある町」
 - 「ふれあいの町」

2章 現況及び住民意向からの課題等

5. 風土イメージ調査における傾向

風土イメージ調査は、住民意向反映の一環として、住民、転出者、来訪者による西根町のイメージを分析し、計画に際して考慮すべき景観要素などを把握するために行った。調査対象者ごとの特徴的な傾向は、概ね次のようなものである。

なお、本調査は、平成10年度～平成11年度に行ったものである。

住 民

- 強いイメージを持つものは「都市施設」や「祭り」などにまとめられ、日常生活や地域に関連する要素のイメージが強い。
- 市街地の広がり強くイメージされており、その周辺部は農地として認識されている。
- 自然や居住地域を生活の場として一体的にとらえる傾向がある。また、都市的、近代的景観への評価が高い。

転出者

- 強いイメージを持つものは「山菜採り」「田植え」「稲刈り」など、自然と密着した生活に関連するものがあげられる。
- 住民と比べて、市街地周辺の農地に対する認識が弱く、山林に対する認識が強い。

住 民

- 強いイメージを持つものは、焼走りキャンプ場など、近年整備された観光施設や国道沿道に立地する施設であり、固有のイメージは経由地としてのイメージが強い。
- 幹線道路沿いの市街地以外は、ほとんどが山林のイメージである。
- 自然的、伝統的景観に対する評価が高い。

2章 現況及び住民意向からの課題等

図 住民・転出者・来訪者のイメージ構成

